

俳ソサエティ「新春Skype句会」出句一覧

二〇二四年一月二十(日) 午後二時〜

15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	作品	作者	天	選	計
縮こまる親追ふ子らの息白し	荊妻 <small>けいさい</small> と言葉少な <small>な</small> に晦日そば	老母にはちぎりて入るる雑煮餅	異界への扉軋 <small>ゆ</small> むや虎落笛	完読す寒柝耳 <small>かんたく</small> にかすかなり	晦日そば今宵は温いほうがいい	元日や次はいずこに大地震	子ら帰り老の二人の寝正月	世の隅に居て省思する晦蕎麦	黄苫菜むしろの上で微睡めり	晦日蕎麦ひと箸ごとのもの想ひ	雨催ひふくら雀のよちよちと	晦日蕎麦よそひ肩の荷おろしけり	しゃぶしゃぶのメ <small>め</small> は年越蕎麦となる	温泉 <small>ゆ</small> の宿の塗りの小椀の晦日蕎麦					

俳ソサエティ「新春Skyype句会」出句一覧

二〇二四年一月二十日(日)午後二時〜

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	作品	作者	天選	計
						冬震災「終活」なんてどうとなれ	晦日蕎麦腹の底から温き夜	若潮を汲める能登の海還らざる	雪しとと壊滅的な地震の地に	古稀の子と白寿の母と日向ぼこ	初暦まず医通いの丸印	甲辰の年始に祈る世の平和	七草の名の麗しきとくにすずしろ	地震襲ふ初春の宴をことほぎを				